湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学

所属　保健医療学部リハビリテーション学科

理学療法学専攻

名前　斉藤琴子

作成日　2022 年 09 月 26 日

1.　教育の責任

私は、湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻40名、2023年度、リハビリテーション学科理学療法専攻の教員として、同学部同専攻の授業を担当しております。担当した科目は以下の通りであり、各授業のシラバスは湘南医療大学 WEB ポータル上で本学学生並びに教職員に公開されております（添付資料1 ）。専攻は、厚生労働省が認める国家資格である理学療法士免許の受験資格を与えることを主な目的としています。国家試験受験のためには厚生労働省が定めた身体障害に対する理学療法に関連した62 単位を履修することが定められています。神経検査測定学、神経系理学療法学は、中枢系疾患についての授業となっており、学生にとって国家試験の出題率が高く重要な科目でもあるのに取り付く島もない印象を受ける分野の中の1つでもあります。

表1　令和4年度で担当した授業一覧(オムニバス含む)

学年	科目名	必修･選択	開講年度	受 講 者数	単位数
1	理学療法教養講座	必修	令和5、前期	40	1
2	神経系検査測定学	必修	令和5、前期	40	1
2	運動学演習	必修	令和5、後期	40	1
3	神経系理学療法学	必修	令和5、前期	40	1
3	クリニカルリーズニング論	必修	令和5、後期	40	1
3	理学療法研究法演習	必修	令和5、後期	40	1
4	チーム医療論	必修	令和5、後期	40	1
4	理学療法特論Ⅱ	必修	令和5、後期	40	1
4	理学療法卒業研究	必修	令和5、後期	40	1

表 2 令和4年度で担当した臨床実習授業一覧

学年	科目名	必修･選択	開講年度	受 講 者数	単位数
1	見学実習(理学療法)	必修	令和5、前期	40	1
3	評価学実習	必修	令和5、前期	40	4
4	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	必修	令和5、後期	40	7
4	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	必修	令和5、前期	40	7

本学での授業の他に、以下のような活動もしております。

1)ハラスメント防止委員

2)紀要委員

3) チューターリーダー

学生に対して学修の指導・相談、個別・保護者面談、進路指導などを、10月に副チューター長が設定されるまでの4月から9月まで1人でチューターリーダーとして、4 年間での学習と研究に関する目標（表 3）を掲げチューターと共に任を務めました。休学者・退学者はおりません。

表 3 4 年間での学習と研究に関する目標

学年	目標	
	知識	研究
1	基礎医学、臨床医学、作業療法学に関する知識の定着度 40%	・論文の構成を理解することができる
2	解剖学・生理学・運動学の定着度 50%	・助言があれば、研究の方法、結果を記載することができる ・参考・引用文献を正しく　記載することができる
3	知識の獲得 ・臨床医学系 50%。 ・解剖学・生理学・運動学 60%	・助言があれば、研究の考察をして、文　章にまとめることができる ・研究の方法、結果を正しく記載できる。
4	理学療法士免許取得へ向けた学習の定着	・助言があれば研究の計画・実施ができる。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

2 つあり、1 つ目は当学の理念でもある、「人を尊び、命をと尊び、個を敬愛する」です。
中国古典の四書五経の一つ、孟子の一説に「愛人　者　人恒愛之　敬人者　人恒敬之」）と挙げられ、「人を愛す者は、人恒（つね）に之を愛し、人を敬する者は人恒に之を敬す」と、言っています。当学の理念もこれに含まれると考えており、理念としています。
2つ目は、「艱難汝を玉にす（かんなんなんじたまにす）」です。今は苦しくても、克服できたときに人間として大きな成長を成し遂げているはずだという意味です。私は、粗い玉を磨いて美しい玉にする、「学生の成長を支援し、促す」ことを教育の理念としています。

2) 理念をもつに至った背景

分量：500 字程度

「艱難汝を玉にす（かんなんなんじたまにす）」、これはリハビリテーションを行う過程で病に打ち勝とうとしている患者様の人生に触れることで、患者様だけでなく私自身も磨かれたと思うからです。学生教育においても、粗い玉からその個性・特徴が輝くような玉を導き出したいと考えています。玉の美しさは永遠ではなく、そのままにしているとまた濁りが出てしまうかもしれま

せん。その際には、時間が経っていても磨けるように、自分自身も良い磨き手でいられるようにしたいと考えているのが、この理念を持つに至った背景です。

理学療法士の仕事は、高齢者や障害者に向かい合い真摯に対応し、大学の理念である「人を尊び、命をと尊び、個を敬愛す」「その人らしさと個別性を尊重して敬愛す」「理念の実践者となります」そのものと思います。在学中に「やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践」を行い、卒業し更に学び続け、社会へ貢献する者になると信じております。

3.　教育の方法・戦略

理念を実現するため、授業にて実践している教育方法は以下となります。

1 ）教授方法

座学だけでなく、実技も伴って教授し、疾患像・障害像が描けるような講義を心掛けています。理学療法士としてなにができるかを問う講義を行うようにしています（添付資料 2）。

2 ）授業の工夫

私が担当している科目は、理学療法士にとっても、国家試験受験に向けても重要なものが多いです。そのため、十分な理解が必要不可欠です。

講義において、必要な資料は PDF 化したうえ、授業掲示板にファイルを添付して事前学習が行いやすいようにしています。神経系検査測定学では小テストを 8 回行い、綜合評価へ加味して成績をつけています。小テストの際に、質問・意見・感想欄を設けており、返却の際にそれに回答する形式にしています（図1）。質問を受けた場合、メールで個別対応した上、次回の授業で解説を行っています。

実技の修得について、講義内でできる限りきちんと解説し、学生同士で反復練習を行うような設定にするようにしています。また、練習時の疑問や確認事項は必ず、講義内で捕捉するようにしています。

卒業研究に関して学生が選んだテーマで、学生が主体的に経験できるような研究プロセスを重視し、支援しています（添付資料 2 ）。

・ブルンストロームステージの手指に評価が自分では甘い事がわかりました。
・筋緊張の評価方法について、実際に行う事で体感でき良かったです。
・実技が多いので、メリハリがついていて目が覚めます。
・プリントのフォントをもっと大きくして欲しいです。
・特にありません。
・中高年者で麻痺の度合いが軽い人は、再発してもまた軽いのでしょうか？

小テストに使用している、質問・意見・感想欄への自由記載（神経系検査測定学）

3 ）自己研鑽

研修会へ積極的に参加することで教育スキルを高めるための研鑽に尽力しています。自らの専門分野の成長と情報入手のために、日本理学療法士協会、リハビリテーション医学会、日本看護科学学会へ所属しています。2022 年は、リハビリテーション医学会で筆頭演者として「モーションキャプチャーを用いた角箸による近位箸のずれの評価」、共同演者として「7 週間に亘る前足部接地走行を用いた衝撃吸収作用の変化」、日本看護科学学会学術大会で「圧電センサと画像解析を併用した新生児の自発運動の計量化と動きの関連」、日本作業療法学会で「モーションキャプチャーを用いた近位箸のずれの評価」、6th Korea China Japan Nursing Conference では共同演者として「Comparison of body movements between low-birth-weight infants and normal infants」を発表し研究活動の情報発信を行い、卒業研究においての指導時に最新の知見を反映できるように学会時の経験を活かすようにしています。なお、日本看護科学学会にて、優秀演題口頭発表賞を受賞しています（添付資料 4）。また、研究補助金等外部資金として、「箸で食べたい」を支えるための筋電図学的研究（文科省　科研費　基盤 C）、「低出生体重児の体動計測の開発と児の体重および発達指標との関連探索研究」を受けて研究を行い、経緯やその結果について、卒業研究を中心として、その他の講義へ還元しています。

学習成果

本学では年 2 回、前期と後期に学生による授業評価アンケートを実施しており、担当する全授業でアンケートの提出を学生に求めております 。以下にアンケート結果の一例を 示します（添付資料 5）。意欲 4.72、理解 4.44、探求心 4.60、熱意 4.72、コミュニケーション 4.76 その他、と言う結果でした。

4.　改善のための努力

理学療法学専攻の学生は、目的意識を持った学生が非常に多く、理学療法士として活躍する学生を育成していく必要があります。活躍するだけではなく、3年後5年後10年後と自ら目標設定を立て、向上していく学生を涵養していかなければいけません。

そのため、担当する講義において、国家試験に対しての必要な知識、臨床において必要な知識、研究活動や 10 年後を見据えた知識やトピックスの導入・提示が必要となるため自分自身の知識を高めるように学会参加・発表、論文作成へ向けて努力を怠らないようにしています。

5.　今後の目標

長期目標：「やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践」を行い、切磋琢磨し続け社会へ貢献する学生を排出することを挙げます。

短期目標：知識の定着率が高い、書く・話す・発表する等の活動（演習）を取り入れたアクティ

ブラーニングのある講義を行う事を目標とします。

【添付資料】

1 ）シラバス、

2 ）卒業論文タイトル

1期生：二重課題と重心動揺の関係性について

2 期生：キネシオテープ®を用いた際の重心動揺の変化について―安定性に着目して―

3 期生：課題指向型に よる箸利き手交換―国内外の文献レビューを通して―

4 期生：「箸で食べたい」を支える基礎的研究

5 期生：音楽療法による若年者の心理ストレス反応－受動的音楽療法と能動的音楽療法の比較・検討－

3 ）学会発表

・モーションキャプチャーを用いた近位箸のずれの評価、

・7 週間に亘る前足部接地走行を用いた衝撃吸収作用の変化、

・圧電センサと画像解析を併用した新生児の自発運動の計量化と動きの関連、

・日本看護科学学会学術大会

・モーションキャプチャーを用いた近位箸のずれの評価、 日本作業療法学会

・Comparison of body movements between low-birth-weight infants and normal infants、6th Korea China Japan Nursing Conference

4 ）受賞：優秀演題口頭発表賞：圧電センサと画像解析を併用した新生児の自発運動の計量化と動きの関連、日本看護科学学会（2022 年）

5 ）授業評価アンケート 運動学演習